

ACTION NOW

Vol. **5**

高松青年会議所事業紹介

- ・インバウンド事業
- ・子どもが夢を持つ学校出前事業
- ・子どもが夢を持ち親子の絆を強める事業
- ・UNSDGsに取組むプログラム事業

特別対談

高松市長

高松青年会議所理事長

大西秀人 × 松岡敬三

市政と高松JCのこれからについて

大西秀人 × 松岡敬三

市政と高松JCのこれからについて

本日の対談は①インバウンドについて②子供の夢や自己肯定について③ダイバーシティ・マネジメントについて④SDGsについて⑤高松JCに求めることがテーマとなっております。まずは、①インバウンドについてお願いします。

松岡 将来「子供たちが果たして幸せに暮らしているのか」がテーマです。インバウンドで外貨を稼ぐなど、高松空港の民営化も含めてチャンスが多くあるので、広げるような事業をしていきたいと考えています。

大西 人口減少や高齢化は避けられない状況で、高松が活力を維持し発展していくためには、外からの交流人口を受け入れるインバウンドを中心とし、交流事業の受入れ、観光や国際会議などをより力を入れていく必要があります。「世界の中での高松」としてグローバルな視点を向け高松の良さを磨いてアピールしていくなどの対策を取っていかなくてはと思っています。幸いにして高松空港で海外の直行便が今4路線、週20便飛んでおります。地方都市でこれだけ飛んでいるのは他にはあまりないと思います。香川県は海外からの宿泊者数対前年度伸び率が全国一番で勢いが出てきていますので、インバウンドによる経済や社会の発展に繋げ、まちづくりをやっているかと思っています。

松岡 我々はインバウンドに対する市民の意識を上げる事業を、海外から来られる方が多い秋に開催したいと考えています。

大西 高松青年会議所さんの事業とタイアップし、まずは受入れ態勢を整えることが必要ですね。高松市は県と協力し、高松駅、高松空港に3カ国語以上の外国語に対応できるカテゴリー3の観光案内所を設置しています。また、フリーエッジを公共施設や、バス、中央商店街でも自由に使用できる環境を整えることによって、高松の街でストレスなく滞在し、楽しんでいただけるような態勢が是非必要です。あとは、受入れる側ですね。外国人におもてなしができるような人材育成が必要です。これは高松青年会議所さんが実施される事業が大いに役に立っていますので、是非意識改革を図って頂ければと思っています。

②子供の夢や自己肯定について

松岡 次世代をテーマに調べたところ、高松は子供たちの自己肯定ワースト1位だったと情報を得ました。自己肯定イコール将来大きくなることや、大人になる楽しみや、結婚する楽しみなどの全ての根幹になると思っています。1年間3つの柱の一つとしてやっていきます。

大西 日本は少子化が進み人口が減っております。この少子化をくいとめるため、子供を生み育てやすい環境を充実しなければならぬと、高松市では「子ども子育て支援施策」に力を入れていきます。同時に、子供の一人ひとりが意欲を持ち、夢や希望を抱いて生きていける、「生きる力」を身につけていく必要があります。そのためには家庭環境をよくしていかなければなりません。問題の1つとして、子供の貧困があります。貧困の連鎖がおこらないようにするためには、教育が重要ですが、生活困難世帯において、子供を大学まで行かせたいと考える割合は50%ほどしかないんですね。育った環境に関わらず、子供が自分の能力にあつた教育を受けられるようにしていかなければならない。自己肯定感、夢や希望を持つことができ、自分の人生を豊かに送ることができる教育を施していかなければならない。そのために、より深く先生方が話をし、子供の意識を変えることにより自己肯定感を高めることに繋げていければと。さらに、家庭や地域における支援にも力を入れてやっつていこうとしています。家庭で家族一緒に食事ができていない子供が非常に増えています。その対策として、子ども食堂への支援や、子供の貧困対策コーディネーターの配置により、相談や支援の連



ります。しても成果を期待致しております。